

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100712		
法人名	医療法人 松岡会		
事業所名	山城グループホーム		
所在地	徳島市山城西3丁目19番地		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町村受理日	平成27年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、笑顔にあふれ明るい雰囲気の中で、家庭的な生活を送っています。家族様とのつながりを大切にし、いつでも 気軽に来所出来る雰囲気作りを心掛けています。看護、医療、介護の面での連携はとてスムーズで、住み慣れた当グループホームでの最期を望まれる家族様も多く、スタッフ一同自信を持って取り組んでいます。又職員の勤務年数もそれぞれに長く居心地の良い施設又人間関係の良さが表れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、理念に“笑顔あふれる楽しい生活”掲げ、日頃の支援に取り組んでいる。これまで事業所の周囲には水田が広がっていたが、新築マンションなどが増えて都市開発が進んできて四季の変化が分りにくくなってきたため、共用空間内に季節の飾りつけを行うなどの工夫を行って、日頃の利用者の安心な暮らしの支援に繋げている。また、事業所では実習生を受け入れるなどして、将来の福祉人材の育成に努めている。また、近隣住民から認知症に関する相談があった際には、事業所の専門性を活かしたアドバイスを行うなどしている。終末期の支援にも全職員で積極的に取り組んでおり、医師や協力医療機関と24時間対応可能な連携体制を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に、理念を唱和し、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。	管理者と職員は、申し送り時に理念を唱和し、地域密着型サービスの意義を共有している。理念の“笑顔あふれるたのしい生活”を継続することができるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練、文理の学園祭、学生や介護実習、ボランティアの受け入れをし、地元の人々と交流することに努めている。町内会に加入している。	事業所では、地域や学校の行事に参加するなどして、住民との交流を図っている。また、施設の有する認知症ケアなどの専門性を活かして、地域での認知症の啓発に努めている。実習生やボランティアの受け入れも行っており、将来の福祉人材の育成に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及び職員は知己の様々な研修、会合に係りながら、認知症ケアの啓発に努めています。実習生の受け入れやDS利用者との交流も積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況報告書や年間行事計画その季節に応じたいろいろな情報を提供し、話し合いを行い、色々な意見を出し合い、サービス向上に努めている。	2か月月月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の現況や行事報告などを行っている。消防署の職員によるAEDの実技指導や看護師の講演等もあり、出席者からは意見や質問を得ている。会議時に出された意見は事業所の運営面に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月ながいき課に出向き、またわからないことに関しては直接電話し、顔なじみの関係を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者や職員は市担当窓口に出向いて相談をするようにしている。市からは研修会の案内等があり、ともに課題の検討を行うなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が、身体拘束の内容を把握し、身体拘束をしないケアをしています。	全職員で身体拘束の弊害について学習する機会を設けている。利用者の状況等に応じて一時的な拘束がやむを得ない場合には、家族と話し合い、同意を得た上でミトンなどを使用した行動抑制を行うようにしている。見守りを中心とした支援を行うことで玄関を開錠しており、安全面に配慮しつつ自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることがないように、職員間同士のコミュニケーションを図り、防止に努めている。虐待防止マニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用していた入居者がいたので、職員一同制度について理解し周知徹底しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は、利用者や家族に十分な説明を行い理解納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム玄関に意見箱を設置し、利用者様からの意見・苦情があった場合、管理者・職員は、傾聴し、解決していくように努力している。	利用者や家族から出された意見や要望は、管理者と職員間で検討し、速やかに対応している。運営面に反映したことは、その経過や結果を利用者や家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングや勉強会・責任者会議を開き意見を交換し、向上に努めている。職員から意見や要望があるときには、その都度聞き、話し合いの機会を作っている。	日頃から、管理者は職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、意見や要望が言いやすい職場環境づくりに努めている。利用者との関わりの中から生まれる職員のアイデアを運営面に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の意見や不満を聞き入れてくれる。常に代表者と職員が話し合いをもてる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修をうけ、法人内・外の研修も進んで受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修生の受け入れ施設として、他の施設の方々と交流をふかめたり、研修会等の活動を通じて情報交換し、サービスの質の向上をさせていく取組をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの相談があった場合には、ゆっくり耳を傾け話をし、受け止めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時より家族様から困っていること・不安なことは親身になって聞き入れ、入所中も電話や面会時などに話し合い相談しています。いつでも受け入れる努力はしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、まず必要としていることを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から、昔のことわざや習わしを教えていただいたり、楽しい時は一緒に笑い支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや誕生会の行事に、家族様も一緒に参加していただきともに楽しみ喜んでいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	華道の先生をしていた時の友人が訪ねて来たり、途切れない関係作りに努めています。	利用者の友人が来訪したときには、ゆったりしてもらえるよう配慮している。利用者と家族で外食に出かけたり、お墓参りに行ったりすることができるよう支援している。職員は、利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団らんの場でのその人それぞれの役割・居場所づくりを心がけ、利用者様同士が支えあえる関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後利用者様の紹介などの問い合わせをして頂いたり、断ち切らない付き合いを大切にしています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在、キザミ・ミキサー食の入居者がほとんどですが、プリンやヤクルト等本人の希望も取り入れています。病院受信時にも職員が付き添っています。	職員は、日頃の利用者との関わりを通じて一人ひとりの思いを把握するようにしている。意思の表出が困難な方には、家族から情報を得るなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、個人個人の生活歴を大切に、好きなヘアバンドをしてみたり、お気に入りのバッグを持ち歩いています。好みに応じて、コーヒーを出したり生姜湯を出しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態や生活リズムに合わせた支援をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケアカンファレンスを開催し、意見やアイデアを反映した介護計画を作成しています。家族様から意見・要望を聞き、介護計画に反映している。	カンファレンスを開催し、家族や職員、看護師等の関係者間で話し合い、利用者の希望を反映した介護計画を作成している。定期的に介護計画を見直している。また、利用者の状態に変化が生じたときや、家族から要望が出されたときにも介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を個別記録・申し送りノートに分かりやすく記入し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	DSと併設している為、マッサージ機・カラオケ・慰問・誕生会等その時々に応じて柔軟な支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議においては、民生委員や家族様・包括支援センターの方に来ていただき、利用者様と世間話などをして、認知症に対する理解・協力を深めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	忙しい家族様に対しては、職員が病院受診に同行し、受診結果を家族様に報告して本人及び家族様の希望を支援しています。	多くの利用者が、同一法人の運営する医療機関の医師を主治医としているが、以前からのかかりつけ医を受診する利用者もいる。専門科の受診は家族が付き添うことを基本としているが、困難などときには職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、看護師に状態報告をしています。褥瘡処置・点滴・受診時の付き添いなどの支援をしている。朝・夕利用者様のバイタルチェックをし健康状態を把握しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、職員交替で様子を見に行き主治医と情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化がある度に、医師・看護師・職員全体で話し合い、状態を家族に報告しています。今後の変化に備えて検討や支援に取り組んでいます。	事業所では終末期の介護に関する同意書を作成し、契約時に利用者や家族に説明を行ったうえで意向を確認するようにしている。利用者の心身状況の変化や家族の意向に変化があれば、繰り返し話し合っている。医師や看護師と連携を図りつつ、支援するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救命救急講習を毎年実施しています。緊急時マニュアルを作成し周知徹底を図っています。24時間院長及び看護師に連絡が取れる状態になっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、民生委員に参加していただき実施しています。避難場所の地図を廊下に掲載し、常に目につくようにしています。	年2回、消防署の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。ヘルメットや食料、飲料水等の物品を備蓄している。地域の民生委員児童委員を通じて、近隣住民へ協力依頼を働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の自尊心を尊重するような声掛けをおこなっています。	つねに職員は、利用者を年長者として敬って接するよう心がけている。利用者にも馴れ馴れしい態度や言葉で接することのないよう、職員間で確認し、必要に応じて改善するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけをし、決めたことを押し付けるような事はせず、一人ひとりの利用者が自分で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにそって見守りながら生活を送り、体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きなヘアバンドをしたり、お気に入りのバッグを持ち歩いたり、自分の好みの服を着ておしゃれを楽しんでもらっています。その他職員によるヘアカット等を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在一緒に食事の準備が出来る入居者様が少ない為、食後のお盆拭きやおしぼりをまいて頂いたりエプロンを畳んだり出来る事をしてもらっています。	ご飯と味噌汁は事業所で調理しているが、副食は業者に委託している。事業所で利用者一人ひとりに合わせた食事形態に加工している。利用者の心身状況などから、ともに調理をすることは困難であるが、おしぼりをまいたり、お盆を拭いたりするなどの可能な範囲で、利用者も食事の一連の活動に加わることができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、職員が情報を共有しています。発熱者がいる場合、特に水分補給に気を付けています。食事量の少ない方には、院長の指示により、栄養補助食品を摂ってもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。就寝前には、義歯を洗浄し洗浄剤に入れて消毒を行っています。歯科受診が必要な入居者様には受診しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在入居者が重度化している為、ほとんどの方が全介助になっています。排泄もオムツ交換がほとんどで、それぞれの排泄量に応じた支援を行っています。	利用者一人ひとりの排泄のタイミングを把握し、個別に応じた排泄支援に努めている。なお、尿意のない方が多く、オムツ交換が主な排泄支援となっている。職員がトイレへ誘導し、なるべくトイレで排泄することができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日自家製のヨーグルトを作り自然排便を促しています。それでも排便が無い場合は水分量を多くしたり、下剤を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほとんどの方が機械浴の為、日を決めて入浴して頂いています。体調が悪い方は足浴や清拭で対応しています。	利用者の希望に応じて、入浴することのできる体制を構築している。利用者一人ひとりの身体状態にあわせて、また職員の負担軽減にも考慮した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、1日の生活リズム作りをして、ゆっくり休息、安眠できるように支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬は職員が介助し服薬してもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった楽しみや、役割を見つけ支援しています。新聞を希望する人には、配達してもらっていましたが、最近はずぐ破ってしまう為12月から止めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者が重度化している為、最近車いすで公園に散歩にでかけたり、季節の花を楽しんで頂いています。家族様の協力も得ながら外出の支援をしています。	利用者が戸外で気持ち良く過ごすことができるよう、家族の協力を得るなどして季節の花見や阿波踊りの見物などに出かけている。車いすの利用者が増えてきたなどの理由により、外出の機会は少なくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は事務所で管理し、必要な物や、食べたい物は職員が購入しています。こづかい帳のコピーと領収書は家族様に送っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、事業所の携帯電話を使用し、人目を気にせず話をして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい音楽を流したり、廊下には季節感のある飾り等を掲示し、家具の配置は一緒に考え工夫しています。中庭の月下美人の花が咲くのを楽しみにしています。	廊下やリビングには、季節の飾りつけをしている。手作りの小物もあり、家庭的な雰囲気配に配慮している。畳敷きのコーナーやソファを設置し、利用者が好みの場所で過ごすことができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの方が車いすの為、食堂で過ごして頂くか、廊下を自走したりしています。居室で休みたい方は、休んで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒や椅子など使い慣れた物を置き、目覚まし時計・テレビ等を持ってきてもらっています。家族の写真等を飾っています。	事業所では、利用者の居室に一人ひとりの馴染みの家具を持ち込んでもらっている。居室は整理整頓が行き届いている。家族の写真を飾っている利用者もあり、一人ひとりが落ち着いて過ごすことができるよう居室の環境づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・風呂場に手すりを取り付け、安全確保と自立への配慮をしています。台所の高さも利用者の使いやすい高さにしています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		毎朝申し送り時に、理念を唱和し、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。				
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		地域の防災訓練、文理の学園祭、学生や介護実習、ボランティアの受け入れをし、地元の人々と交流することに努めている。町内会に加入している。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		管理者及び職員は知己の様々な研修、会合に係りながら、認知症ケアの啓発に努めています。実習生の受け入れやDS利用者との交流も積極的に行っています。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		活動状況報告書や年間行事計画その季節に応じたいろいろな情報を提供し、話し合いを行い、色々な意見を出し合い、サービス向上に努めている。				
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる		毎月ながいき課に出向き、またわからないことに関しては直接電話し、顔なじみの関係を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。				
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		すべての職員が、身体拘束の内容を把握し、身体拘束をしないケアをしています。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		事業所内で虐待が見過ごされることがないように、職員間同士のコミュニケーションを図り、防止に努めている。虐待防止マニュアルを作成している。				

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用していた入居者がいたので、職員一同制度について理解し周知徹底しています。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は、利用者や家族に十分な説明を行い理解納得をして頂いている。					
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム玄関に意見箱を設置し、利用者様からの意見・苦情があった場合、管理者・職員は、傾聴し、解決していくように努力している。					
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングや勉強会・責任者会議を開き意見を交換し、向上に努めている。職員から意見や要望があるときには、その都度聞き、話し合いの機会を作っている。					
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の意見や不満を聞き入れてくれる。常に代表者と職員が話し合いをもてる環境にある。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修をうけ、法人内・外の研修も進んで受けている。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修生の受け入れ施設として、他の施設の方々と交流をふかめたり、研修会等の活動を通じて情報交換し、サービスの質の向上をさせていく取組をしている。					

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの相談があった場合には、ゆっくり耳を傾け話し、受け止めています。					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時より家族様から困っていること・不安なことは親身になって聞き入れ、入所中も電話や面会時などに話し合い相談しています。いつでも受け入れる努力はしています。					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、まず必要としていることを見極め対応に努めている。					
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から、昔のことわざや習わしを教えてくださいだったり、楽しい時は一緒に笑い支えあう関係を築いています。					
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや誕生会の行事に、家族様も一緒に参加していただきともに楽しみ喜んでいただいています。					
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	牧師さんが訪ねて来たり、お墓参りに出かけた途切れない関係作りに努めています。					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団らんの場でのその人それぞれの役割・居場所づくりを心がけ、利用者様同士が支えあえる関係づくりに努めています。					

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後利用者様の紹介などの問い合わせを頂いたり、断ち切らない付き合いを大切にしています。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在、キザミ・ミキサー食の入居者がほとんどですが、プリンやヤクルト等本人の希望も取り入れています。病院受信時にも職員が付き添っています。					
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、個人個人の生活歴を大切に、好みに応じて食後コーヒーをだしたり、生姜湯を出しています。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態や生活リズムに合わせた支援をしています。					
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケアカンファレンスを開催し、意見やアイデアを反映した介護計画を作成しています。家族様から意見・要望を聞き、介護計画に反映している。					
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を個別記録・申し送りノートに分かりやすく記入し、介護計画の見直しに活かしています。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	DSと併設している為、マッサージ機・カラオケ・慰問・誕生会等その時々に応じて柔軟な支援をしています。					

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		運営推進会議においては、民生委員や家族様・包括支援センターの方に来ていただき、利用者様と世間話などをして、認知症に対しての理解・協力を深めています。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		忙しい家族様に対しては、職員が病院受診に同行し、受診結果を家族様に報告して本人及び家族様の希望を支援しています。				
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		毎朝、看護師に状態報告をしています。褥瘡処置・点滴・受診時の付き添いなどの支援をしている。朝・夕利用者様のバイタルチェックをし健康状態を把握しています。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		利用者が入院した時には、職員交替で様子を見に行き主治医と情報交換や相談に努めています。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		状態変化がある度に、医師・看護師・職員全体で話し合い、状態を家族に報告しています。今後の変化に備えて検討や支援に取り組んでいます。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		消防署の協力を得て、救命救急講習を毎年実施しています。緊急時マニュアルを作成し周知徹底を図っています。24時間院長及び看護師に連絡が取れる状態になっています。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		年2回避難訓練を実施し、民生委員に参加していただき実施しています。避難場所の地図を廊下に掲載し、常に目につくようにしています。				

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		個人個人の自尊心を尊重するような声掛けをおこなっています。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		利用者に合わせて声かけをし、決めたことを押し付けるような事はせず、一人ひとりの利用者が自分で決定できるように支援している。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		利用者のペースにそって見守りながら生活を送り、体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		帽子やメガネの好きな入居者様は毎日自分の好みで帽子やメガネを選んで、帽子は27も持っています。メガネも10持っています。その他職員によるヘアカット等を行っています。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		現在一緒に食事の準備が出来る入居者様がない為、食後のお盆拭きやおしぼりをまいて頂いたりエプロンを畳んだり出来る事をしてもらっています。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		食事や水分の摂取量をチェックし、職員が情報を共有しています。発熱者がいる場合、特に水分補給に気を付けています。食事量の少ない方には、院長の指示により、栄養補助食品を摂ってもらっています。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		毎食後、口腔ケアを実施しています。就寝前には、義歯を洗浄し洗浄剤に入れて消毒を行っています。歯科受診が必要な入居者様には受診しています。				

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		トイレに行ける方は、トイレ誘導をし、トイレでの排泄を促しています。入居者様のそれぞれの拝察パターンを把握して、トイレ誘導をしています。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		歩行訓練と適度な運動を実施し、自然排便を促しています。それでも、排便が無い場合は水分量を多くしたり、下剤を使用しています。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		一応、入浴日は決めています。入浴希望がある利用者については、いつでも入浴できるように支援し、入浴拒否をされる方に対しては、声掛けの工夫で対応しています。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		日中の活動を促し、1日の生活リズム作りをして、ゆっくり休息、安眠できるように支援をしています。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		薬の説明書をケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬は職員が介助し服薬してもらっています。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		一人ひとりにあった楽しみや、役割を見つけて支援しています。気分転換に廊下の椅子に座り、外を眺めたり入居者様どうして話をしたり楽しんでいます。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		入居様が重度化している為、最近では車いすで公園に散歩にでかけたり、季節の花を楽しんで頂いています。家族様の協力も得ながら外出の支援をしています。				

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		預かり金は事務所で管理し、必要な物や、食べたい物は職員が購入しています。こずかい帳のコピーと領収書は家族様に送っています。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		利用者の希望があれば、事業所の携帯電話を使用し、人目を気にせず話をして頂いています。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		心地よい音楽を流したり、廊下には季節感のある飾り等を掲示し、家具の配置は一緒に考え工夫しています。中庭の月下美人の花が咲くのを楽しみにしています。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		ほとんどの方が車いすの為、食堂で過ごして頂くか、廊下を自走したりしています。居室で休みたい方は、休んで頂いています。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		筆筒や椅子など使い慣れた物を置き、目覚まし時計・テレビ等を持ってきてもらっています。家族の写真等を飾っています。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		トイレ・廊下・風呂場に手すりを取り付け、安全確保と自立への配慮をしています。台所の高さも利用者の使いやすい高さになっています。				